

令和6年度 学校評価報告書

大牟田市立宅峰中学校ほしざら分校 (NO 1)

学校教育目標	未来を生き抜く力（徳・知・体）と社会性を併せ持つ生徒の育成			重点目標	夢や希望をもち、学ぶ意欲を継続する生徒の育成			
	評価計画			自己評価		学校関係者評価	改善計画	
重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）	
重点目標に 関する 評価	主体性、社会性、人間関係力の向上	○主として人とのかかわりに関するこに重点化した道徳の授業を充実させる。 ・考えを書く活動の設定	○生活アンケートによる自他ともに大切にする生徒 【生徒アンケート】→90%	3	○生活アンケートを毎月実施している。実施後は、職員全体で共通理解を図り、担任に聞き取りを指示してトラブルの早期対応に努めている。 ○学齢経過者には、既に社会生活や実務経験等により一定の資質・能力が養われている。そのため、道徳の授業については、学齢経過者に必要と思われる内容により授業を編成した。その中で、意図的に自分の考えを書く活動を設定した。	A	・学校の評価は適切である。 ・新しい学校のため、全般的に難しさがあり、定時制とは違った発見があった。まずはお互いを知るところから焦らず取り組んでほしい。 ・様々な年代や家庭背景をもつ生徒への対応は難しいと思う。今後もほしざら分校の強みを生かした取り組みをお願いする。	・考えを伝え合う交流活動を仕組むことで、人間関係を向上する力を身に付けさせたい。そのために、各教科や領域において意図的にペアでの活動やグループ活動を仕組む。
		○生徒同士の交流活動を取り入れた授業の展開を工夫する。 ・考え方を伝える時間の設定（個に応じて）	○授業の中で、自分の考え方と他の生徒の考え方を比べたり、自分の考え方を発信したりする場の設定 【教育活動評価】→80%	2	△考え方を伝え合う交流活動については、生徒の現状から実施が困難であった。 △学校行事の運営については、毎日登校できる生徒が少なく、生徒自身による企画ができなかつた。いかに生徒自身による主体的活動とするかが課題である。	B	・自己評価は、上方修正すべきである。（第3項目） ・積極的に人前で表現することはできなかつたかもしれないが、発表の場を設定されており、実施できている。 ・手探りの運営の中、よく企画されている。	・積極的な交流を促し言語の壁をなくすために、ICTの翻訳機能を有効に使うことが考えられる。 ・学校行事等を、生徒の主体的な活動とするために、家庭訪問や個別の相談の中で、生徒のやりたいことを引き出す必要がある。また、登校が難しい生徒には、他の生徒の考え方を家庭訪問やビデオ等を使って伝え、学級学校の一員であることを意識せざるようする。
		○生徒自身が企画・運営する特別活動の推進を図る。 ・生徒が交流する学級活動の充実 ・生徒自身が企画・実行できる学校行事の設定	○生徒同士が合意形成を図る学級活動（話合い活動）の実施【教育活動評価】→80% ○生徒が運営できる学校行事を設定【学期に1回以上】	2	△考え方を伝え合う交流活動については、生徒の現状から実施が困難であった。 △学校行事の運営については、毎日登校できる生徒が少なく、生徒自身による企画ができなかつた。いかに生徒自身による主体的活動とするかが課題である。	A	・自己評価は、上方修正すべきである。（第3項目） ・積極的に人前で表現することはできなかつたかもしれないが、発表の場を設定されており、実施できている。 ・手探りの運営の中、よく企画されている。	・学校行事等を、生徒の主体的な活動とするために、家庭訪問や個別の相談の中で、生徒のやりたいことを引き出す必要がある。また、登校が難しい生徒には、他の生徒の考え方を家庭訪問やビデオ等を使って伝え、学級学校の一員であることを意識せざるようする。
		○豊かな体験活動の充実を図り社会性を育成する。	○「ほしざら文化芸術祭」を設定し、社会体験等を推進【学期に1回以上】	3		A		
		○個に応じた学習を展開するための、個別の支援計画を作成する。	○将来の進路を見据えた個別の支援計画を作成【教育活動評価】→100%	3	○個別の支援計画を作成し、少人数学習や複数の教師による指導等、授業の在り方を工夫することで、生徒一人一人のニーズに合わせた教育活動を実施することができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・生徒一人一人を大切に関わっておられる。教職員の姿に学ぶことが多い、感謝している。	・学習意欲を継続するために、生徒それぞれのニーズに応じて、何のために学んでいるのかをしっかりと把握する必要がある。また、将来の自分を常に意識させ、教育相談等で個別に目標を設定させる。
		○生徒のニーズに対応した支援体制を工夫する。	○少人数学習や複数の教師による指導体制を工夫【教育活動評価】→80%	4	○生徒の実態に応じて教材を工夫し、それぞれの教科で個別に対応を行つた。	A	・一人一人の環境の違いに細かく対応されていることは大変なこと。少しずつ道筋が拓けてくると思う。	・学ぶ楽しさを実感するために、生徒の実態に応じた各教科の授業改善に取り組む。また、専門性を高めるための研修にも積極的に参加させるようにする。
いじめ防止	学ぶ意欲を継続する生徒	○生徒の状況を常に把握し、個に応じた教材・教具を準備する。	○個に応じた教材・教具を工夫した授業の展開【教育活動評価】→80%	4	△家庭環境や仕事、精神的な不安等により、学習に対する意欲や登校意欲が、低下した生徒が見られた。学ぶ楽しさを実感させる授業や体験活動の工夫が必要である。	A	・目的が各自それなので、何が目標で何をしたいのか、早く本音を把握できるような学級づくりができる	・これまで経験することがなかつたような体験活動を計画的に仕組み、生徒の登校意欲につなげる。
		○意欲が継続して学ぶことのできる工夫を行い、学びに向かう力を高め、主体的な学習の充実を図る。 ・ほしざらノートによる振り返り	○課題解決のための意欲を高める授業実践【教育活動評価】→90%	2	△外国籍の生徒、出席がなかなかできない生徒、コミュニケーションが苦手な生徒等の実態により、互いの意見を伝え合うような交流活動は困難であった。意図的・段階的に交流活動を仕組む必要がある。	A	・生徒それぞれの事情があり、交流を活発に行なうことは難しいと思うが、今後少しずつ交流が広がることを期待する。	
		○生徒の実態に配慮しながら、自分の考えを表現する時間を意図的に設定する。	○学ぶ楽しさを実感し学びたいという意欲を継続する生徒【生徒アンケート】→90%	2		A		
		○交流活動の意図的な設定【教育活動評価】→80%	○自分の考えを書き、説明することができる生徒【生徒アンケート】→70%	2		A		
		○運動が苦手な生徒や高齢な方でも楽しく取り組むことができるよう、興味関心を高め主体的な学びを生み出す場の工夫を図る。	○保健体育科や学級活動等において、日常的に取り組める運動を紹介し、自分の課題に応じて選択しながら運動できる生徒【教育活動評価】→80%	3	○体育科の学習では、体育科担当教師が考えた「ほしざら体操」で体ほぐしを行ったり、ルールが簡単で高齢者でも取り組める「ニュースポーツ」を取り上げたりして、誰でも参加できるように内容を工夫した。	A	・学校の評価は適切である。 ・様々な年代の生徒が楽しめるスポーツを工夫しながら実践されている。	・学齢期に様々な事情により学校に行けなかつた生徒にとって、夜学校に行くという生活リズムを確立することは非常に難しかつたと思われる。他機関と連携しながら、学習面だけでなく、様々な面で生徒の支援を行っていくことを継続する。
		○それぞれの生活に合わせた生活習慣を確立させるための教育相談を充実する。	○夜間中学に通うことができる生活習慣を確立した生徒【生徒アンケート】→90%	2	△生徒の事情（家庭環境や仕事の変化等）により、夜間中学に通うための生活習慣を確立させることは困難であった。	A	・温かい環境づくりができている。	・生徒それぞれの事情を考慮し、生活の中で道具がなくても簡単に取り組める運動を紹介する。
不登校防止	生活リズムを確立する生徒	○休日における運動の奨励する。	○日常的に体を動かし、運動を習慣化している生徒【生徒アンケート】→80%	2	○本校の生徒の実態に合わせた環境が整いつつある。廊下の手すりや蛍光灯、体を休めるソファーなど、市教委の協力を得ながら環境改善を行つてきた。	A	・自己評価は、上方修正すべきである。（第4項目）	・生徒の年齢、夜間の教育活動等、他校とは違つた環境整備が必要であるため、教育委員会等と連携しながら環境の整備に努める。
		○日常の生徒の健康管理体制や生徒に合わせた環境整備の充実を図る。 ・高齢者への配慮 ・日常の相談体制の工夫	○年齢や心、体の状況に応じた環境の整備【教育活動評価】→80% ○関係機関と連携した教育相談体制の整備【教育活動評価】→90%	3	○S CやS S W、福祉課等と相談しながら、生徒の不安や悩みに対応してきた。	B		
		○毎月のいじめアンケートを実施し、気になる生徒への聞き取りを行い、全職員で共通理解を図る。	○アンケートに基づく聞き取りや教育相談の実施、認知したいじめの4ヶ月以内の解消【教育活動評価】→100%	4	○毎月実施している生活アンケートでは、いじめの認知はなかつた。また、様相観察、生徒からの聞き取りにおいても、いじめは認知していない。	A	・学校の評価は適切である。 ・年齢が様々なので、人生経験豊かな生徒さんたちとの交流で、お互いに良い結果になっていると思う。	・開校当初は、生徒同士の交流はなかなか見られなかつたが、次第に交流する姿が見られるようになった。ホールームや授業の中で、年齢、国籍等関係なく尊重しあう取組を仕組んできた。今後も、互いの良さを認め合うことができる集団づくりに努める。
		○日常的に生徒への声かけを行い、気になることは、毎日の生徒理解会議で報告する。	○生徒理解会議の実施と対応策の協議及び共通理解【毎日】→100% ○生徒への日常的な声かけと「はじまりの会」「おわりの会」で生徒の良さを紹介【毎日】→90%	4	○生徒理解会議を毎日実施し、生徒の状況について全職員で共通理解し協議を行つた。 ○「はじまりの会」と「おわりの会」の担当者を決め、時宜に応じた話題を生徒に提供してきた。	A		・毎日の生徒理解会議を継続する。
		○出欠状況の確実な把握を行い、関係機関等との連携を図る。	○登校時に、次の日の出欠について確認【教育活動評価】→100%	4	○生徒の出席状況について全職員で把握し、欠席が続く生徒には、サポートチームを組織し家庭訪問等を随時行つた。また、関係機関と連携してケース会議を実施した。	A	・学校の評価は適切である。 ・モチベーションを途切れないようにすることは他の学校でも難しいことである。個別によく対応されている。	・生徒が抱える事情をできるだけ細かく把握し、生徒に応じた適切な対応を関係機関と連携しながら進める。
		○教育相談や日常の会話を通して、生徒一人一人の将来の進路を把握し、個に応じた課題を設定する。	○学期に1回の教育相談の実施と、生徒の状況に合わせた教育相談の実施【教育活動評価】→100%	3	○年間4回の教育相談を行い、学習内容や進路等について生徒と相談しながら個別に対応を行つた。	A	・少人数のメリットを活かしている。 ・何のためにこの学校に来たのか、日々認識する機会があるとよい。	・生徒の将来の進路、希望を聞きながら、登校することに意義を感じることができるような授業内容の改善や学校行事等の企画に取り組む。
働き方改革	ワークライフの確立	○出張等による午前中勤務の確実な振替を取得する。	○午前中勤務に係る振替の取得100%	4	○午前中出勤や休日の出張等による振替は、確実に取得させた。	A	・学校の評価は適切である。 ・続けることが大切であるので、先生方が疲弊されないようにしていただきたい。	・本校は、他校と勤務時間が異なるため、出張等が入った時には必ず声かけを行つて振替を確実に取得するよう促す。
		○勤務時間が変わったことによる体調管理と生活リズムの調整を、面談を通して助言する。	○1か月の超過勤務45時間以内の達成率90%	4	○1か月の超過勤務45時間を超えた職員はいなかつた。	A		

◇評価について

- ・【自己評価】 4：目標達成（90%以上）
- ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である

3：ほぼ達成（70%～90%） 2：もう少し（60%～70%） 1：できていない（60%未満）
 B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである